

実施日程	実施校名	地元主催者
2023年7月4日(火)	河合町立河合第一小学校	奈良県教育委員会
2023年7月5日(水)		
2023年7月6日(木)	黒滝村立黒滝小学校・中学校	奈良県教育委員会
2023年7月7日(金)		
2023年10月17日(火)	大阪市立矢田西小学校	大阪府教育委員会
2023年10月18日(水)		
2023年12月12日(火)	春日部市立備後小学校	埼玉県教育委員会
2023年12月13日(水)		
2023年12月14日(木)	鎌ヶ谷市立南部小学校	千葉県教育委員会
2023年12月15日(金)		

知っていますか?～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

一般社団法人 こども映画教室®とは…

2004年に始まった「こども映画教室®」のミッションは「こどもと映画のアカリミライ」。多様な活動を通して、映画という自由で身近な芸術をより多くのこどもに届けます。

こども映画教室のポリシーは2つ。

1. 大人は手出し口出ししないこと。
2. 一流の映画人と出会うこと。

大人がこどもを信じ自主性を尊重することでこどもには自尊心が生まれ、真剣な大人との出会いはこどもを勇気づけ自己肯定感をもたらします。

「映画教育は人間教育」という言葉を胸に、生きづらさを抱えた子や、居場所をもちにくい子にも映画を届けたいと活動しています。

これまでに、是枝裕和、諏訪敦彦といった一流の映画監督たちが

この活動に共感し特別講師を引き受けています。

一般社団法人 こども映画教室

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F
phone & fax : 050-3188-1549

info.kodomoeiga@gmail.com

http://www.kodomoeiga.com

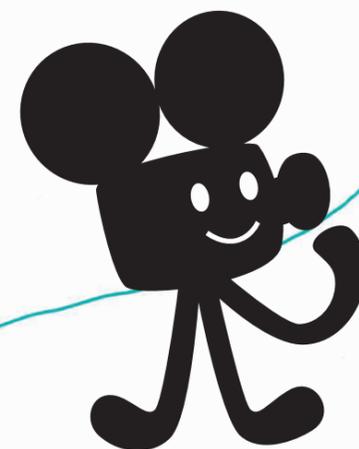
https://www.facebook.com/kodomoeiga/



令和5年度
学校巡回公演事業

一般社団法人

こども映画教室



映画鑑賞+撮影ワークショップ

「名作映画を観て、シーンを撮影してみよう！」

映画を深く味わい、映画のシーンを参考に撮影してみよう!

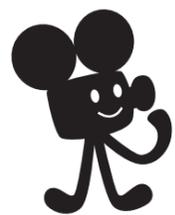
「学校巡回公演事業とは」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)独立行政法人日本芸術文化振興会



映画鑑賞+ワークショップ

「名作映画を観て、シーンを撮影してみよう！」

映画を深く味わい、映画のシーンを参考に撮影してみよう！

プログラム紹介

※プログラムは施設ごとの状況により変更となる場合がございます。

①映画を“観る”

映画館が街中からなくなっている今、体育館で映画を鑑賞することは地域の大人も含めて多くの人に体験してもらいたいことです。その鑑賞に『お早よう』は最適です。1959年の作品ではありますが、主人公の少年たちの気持ちは今の子どもたちにも共感できるものです。コミカルなシーンも多く、子どもにも大人にとっても忘れがたい体験となるでしょう。また、日本が世界に誇る映画監督である小津安二郎作品をこの機会にぜひ鑑賞してもらいたいと思います。



『お早よう』(1959年/94分/日本映画) 配給:松竹
監督:小津安二郎/脚本:野田高梧・小津安二郎
撮影:厚田雄春/音楽:黛敏郎

おはなし

舞台は昭和30年代、東京郊外の新興住宅地。近ごろ、このあたりの子どもたちの間では、おでこを押されたらオナラをする「オナラ遊び」が大流行。その子どもたちの目下最大の関心事は、出まわり始めたばかりのテレビ! 勉強そっちのけで近所のテレビにかじりつくので、大人たちは頭が痛い。実と勇の兄弟は、テレビを買ってくれと騒いで「黙っている!」と父親に叱られ、ついには学校でも口をきかない「だんまり作戦」を決行! 庶民の生活をいきいきと描いた、愉快的なホームコメディ。



写真提供:松竹株式会社



②映画について

“おしゃべりして「映画地図」をつくる”

鑑賞した『お早よう』について、どんな人が出ていた?どんなことをはなしていた?登場人物のお互いの気持ちはどんなだろう?など、みんなでおしゃべりしながら振り返り、映画について感じたことや考えたことを言葉にし、付箋に書いて「映画地図」に貼っていきます。

③映画を自分たちで“撮る”

少人数のチームに分かれ、『お早よう』の撮影方法を参考にして、iPadで短い映画を撮影します。「映画ノート」というワークショップの冊子を使いながら、

1



iPad撮影の練習

2



二人の登場人物を考え、それぞれの気持ちを考えて、絵コンテを作成

3



二人の気持ちが現れるように工夫して撮影

4



撮影した映像をiPadで編集します。

お話づくり、撮影、出演、編集すべてチームのみんなで行います! チームで力を合わせて楽しい映画を作りましょう!

④自分たちの映画を“観る”

それぞれのチームが撮った映画を大きなスクリーンに映して鑑賞します。小さなiPadの画面ではなく大きなスクリーンで見ることによってまた違った感想を持つかもしれません。最後に特別講師が作品について講評します。



特別講師プロフィール
諏訪 敦彦(映画監督)

映画監督、大学教授(東京藝術大学)。1997年に公開された『2/デュオ』で長編映画監督デビューの後、1999年公開の監督作品『M/OTHER』で、第52回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞を審査員全員一致で受賞。2005年には、全てフランス人キャスト・スタッフによる『不完全なふたり』(日仏合作)がロカルノ国際映画祭において審査員特別賞と国際芸術映画評論連盟賞を受賞。その後もフランスを活動拠点とし、オムニバス映画『パリ・ジュテーム』(2006年)への監督参加、フランス人俳優との共同監督による『ユキとニナ』(2009年)がカンヌ国際映画祭において高い評価を受ける。2018年、8年ぶりの監督作品『ライオンは今夜死ぬ』(2017年)をフランスで撮影。久しぶりに日本で撮影された『風の電話』(2020年)が第70回ベルリン国際映画祭国際審査員特別賞を受賞。一般社団法人子ども映画教室の専務理事を務める。

ワークショップスタッフ

- 【映画監督(特別講師)】※1巡回スケジュールにより1名を派遣
諏訪 敦彦、秋生田 宏治、五十嵐 耕平、深田 隆之、瀬田 なつき、早川 千絵、山本 英
- 【エグゼクティブプロデューサー】
土肥 悦子
- 【ファシリテーター】
奥定 正掌、小林 和貴、糠塚 まりや、大川 景子、飯岡 幸子、西原 孝至、太田 達成、藤田 開、関 瑠唯、山本 大輔、西後 知春
- 【メイキングスチール撮影監督】
中村 隆一
- 【チーフテクニカルマネージャー】
酒井 貴史
- 【テクニカルマネージャー】
相馬 航祐
- 【プロデューサー】
浅見 孟